



Higashi Sapporo
Hospital's
Newsletter MADO

October 2021 No.107

第3回・第4回合同 がん緩和ケアに関する 国際会議の開催を一年後に控えて

理事長 石谷邦彦

The International Research Society of the SCPSC理事長

未だCOVID-19 pandemicは世界に猛威を振るっています。この災害に見舞われた方々に心からのお見舞いを申し上げます。そしてそれに立ち向かっている多くの医療者と関係者の方々に深く敬意を表します。しかしながら、感染防御の施策、ワクチン接種、特効薬の開発による出口戦略が期待されるところとなりました。特にmRNAワクチンは今後さらに科学的な進化を遂げられると思われまふ。日本におけるCOVID-19 pandemicは、オリンピック開催も含めた政策の混乱もありながら、2021年末までにはほぼ収束すると予想されています。世界の人の動きも来年は多少の制限の中で経済活動が牽引し多方面で活発に再開される事でしょう。

3rd&4th Joint Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer (SCPSC)はご案内の通り2022年7月21～23日通常の形式で開催いたします。演者の方々、司会の方々、会員の方々、ポスター発表を予定しているの方々、そして一般参加希望の方々にはご心配をお掛けしました。しかしこの間演者の方々には誰1人として不参加の意向を示されませんでした。また多くの方々から来年のSCPSC開催についての問い合わせがありました。私はそれだけ3rd&4th Joint SCPSCのprogramの内容が充実していると自負しております。Programの編成に関わって頂いたDr. Portenoy、Dr. Stiefel、Dr. Puchalski、Dr. Hui、Dr. Chochinov その他の人々に深く感謝致します。

これから3rd&4th Joint SCPSC開催に向けて実行委員会から種々の案内、連絡が皆様のお手元に届けられると思います。皆様のご期待に添うよう最善を尽くします。来年皆様とお会いできる事を楽しみにしております。

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2021年10月発行
発行責任者／病院長 西山正彦
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311(代表)
FAX.011-823-9552
E-mail : info@hsh.or.jp
HP : <http://www.hsh.or.jp>

がん緩和ケアに関する

第1日目

シンポジウム1

7.21 Thu.
08:00-12:00

オピオイドとがんの痛み:進化するその科学と実践

座長: **Russell Portenoy** (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

副座長: 山藤道明 (札幌医科大学)

副座長: 下山直人 (千葉大学)

基調講演

“臨床における調和”最善の臨床を通して、利益を最大に損益を最小に

Russell Portenoy (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

序論

Russell Portenoy (MJHS Hospice and Palliative Care, USA)

オピオイド受容体:構造と機能、そしてその可塑性

Christoph Stein (Charité-Universitätsmedizin Berlin, Germany)

遺伝子多様性(変化性)とオピオイドの損益との調和について

Pål Klepstad (Norwegian University of Science and Technology, Norway)

がん疼痛管理のシステムの変革に向けて - 病態全体から痛みを考える

Marie Fallon (University of Edinburgh, UK)

科学的なオピオイド臨床応用の3事例: オピオイド・ローテーション、突出痛への対応、メサドンの役割

Eduardo Bruera (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1

7.21 Thu.
12:00-13:00

オンコロジーと緩和ケアの統合、その歴史と未来への方向性

Stein Kaasa (European Palliative Care Research Center (PRC), Oslo University Hospital and University of Oslo, Norway)

座長: 照井 健 (東札幌病院)

プレナリーセッション1

7.21 Thu.
13:00-17:00

臨床腫瘍学と緩和ケアの統合 - 最近の動向

オンコロジーと緩和ケアの統合:適切な患者のために、適正な時期に適正な介入を提供する

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 佐治重衡 (福島県立医科大学)

血液悪性腫瘍の根治的治療と緩和ケアの統合について

Thomas William LeBlanc (Duke University School of Medicine, USA)

座長: 小船雅義 (札幌医科大学)

免疫療法治療薬に伴う免疫関連有害事象

Aung Naing (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 高橋孝郎 (埼玉医科大学国際医療センター)

がんリハビリテーションと緩和ケア

Jack Fu (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 辻 晃仁 (香川大学)

イブニングセミナー1

7.21 Thu.
17:00-18:00

緩和ケアの将来に不可欠な要素 - パリアティブ・ナーシング

Philip Larkin (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長: 大串祐美子 (東札幌病院)

ワークショップ

7.21 Thu.
13:00-17:00

※別会場にて開催

進行がん患者の人生の意味に焦点を当てた精神療法

座長: **William Breitbart** (Memorial Sloan Kettering Cancer Center, USA)

ファシリテーター: 藤澤大介 (慶應義塾大学)

ファシリテーター: 中村健児 (東札幌病院)

ファシリテーター: 石田真弓 (埼玉医科大学国際医療センター)

国際会議

事前参加登録締切

2022年 5月31日(火)

一般演題募集締切

2021年 11月30日(火)

第2日目

シンポジウム2

7.22 Fri.
08:00-12:00

なぜ緩和ケアに スピリチュアル・ケアを組み込むことが必要なのか

座長：Christina Puchalski (George Washington University, USA)
副座長：Betty Ferrell (City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA)
副座長：渡邊知映 (昭和大学)

基調講演

専門職連携のスピリチュアルケアにおける教育及び臨床モデル：
緩和ケアの不可欠な要素

Christina Puchalski (George Washington University, USA)

緩和ケアにおける不可欠要素としてスピリチュアルケアの統合を支援する
Betty Ferrell (City of Hope Comprehensive Cancer Center, USA)

スピリチュアリティと緩和ケア：最新エビデンスと今後の優先課題とは？

Karen Steinhäuser

(Duke University School of Medicine and the Durham Veterans Affairs Medical Center, USA)

スピリチュアル・ケア専門家から見た緩和ケア

Anne Vandenhoeck (Katholieke Universiteit Leuven, Belgium)

実存的ないしスピリチュアルな苦痛を持ちながら、
進行性や終末期の病いとともに生きる患者に対して、
スピリチュアルで思いやりのあるケアを取り入れる

Marvin Omar Delgado Guay (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー2

7.22 Fri.
12:00-13:00

医学、そして生と死における緩和ケア：その実存的意義

Sheldon Solomon (Skidmore College, USA)

座長：三宅 智 (東京医科歯科大学大学院)

プレナリーセッション2

7.22 Fri.
13:00-17:00

緩和ケアの臨床における実存的苦痛の要因とその影響

緩和ケアの実存的問題におけるサイコオンコロジーの役割

Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長：中村健児 (東札幌病院)

実存的脅威に直面する患者とのコミュニケーションについて

Peter Salmon (University of Liverpool, UK)

座長：大西秀樹 (埼玉医科大学国際医療センター)

実存的に苦悩する患者はいかに臨床医に影響を与えるか

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, French)

座長：清水 研 (がん研究会有明病院)

「死と死に近づく過程」に関する医療と社会の論調とその緩和ケアへの影響について

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

座長：中川俊一 (Columbia University Medical Center, USA)

イブニングセミナー2

7.22 Fri.
17:00-18:00

グローバルな緩和ケアの発展に向けて：国際的な政策過程を介した
ケア・サービスと必須薬剤の利用促進についての提言

Joseph Clark (Wolfson Palliative Care Research Centre, University of Hull, UK)

座長：日下部俊朗 (東札幌病院)

第3日目

プレナリーセッション3

7.23 Sat.
07:05-12:00

情報と伝達の技術が導入される緩和ケア (Technology-enabled palliative care)の現状と将来

座 長 : David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

序論

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

第四次産業革命とヘルスケア、
特にCOVID-19パンデミック後のメディカルデジタルトランスフォーメーション

池野文昭 (Stanford University, USA)

ヘルスケアプラットフォームにおけるインテリジェンスの強化 - マイクロソフトの見解

榊原 彰 (マイクロソフト ディベロップメント株式会社)

遠隔医療、人工知能、デジタル治療など、これらはゲーム
“ライズオブザロボット”か、それとも“心のこもったケアの未来”か?

Mihir M. Kamdar (Massachusetts General Hospital, USA)

COVIDパンデミックにおける電子患者報告アウトカム測定の実施と遠隔医療

Augusto Caraceni

(Fondazione IRCCS National Cancer Institute, Chair of EAPC Research Network, Italy)

Technology-enabled palliative careの倫理的側面

Ralf J. Jox (Lausanne University Hospital, Switzerland)

ランチョンセミナー3

7.23 Sat.
12:00-13:00

新しいサポーター・オンコロジー分野の開拓

Declan Walsh

(Levine Cancer Institute, Editor-in-chief of BMJ Supportive and Palliative Care, USA)

座長 : 西山正彦 (東札幌病院)

シンポジウム3

7.23 Sat.
13:00-17:00

安楽死・医師による自殺幫助と緩和ケア、 その本質的な議論に臨む

座 長 : Harvey Max Chochinov (University of Manitoba, Canada)

副座長 : Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

序論

Harvey Max Chochinov (University of Manitoba, Canada)

死、尊厳、そして死への希求

Harvey Max Chochinov (University of Manitoba, Canada)

医師が患者の死を早める事の倫理的、法的、そして専門家の適応状況

Richard Huxtable (University of Bristol, UK)

医師が死を早める事に対する精神科的真相と実存的問題

William Breitbart (Memorial Sloan Kettering Cancer Center, USA)

医学的な死への幫助はいつが適切なのか?

Madeline Li (Princess Margaret Cancer Centre, Canada)

完全
同時通訳

第3回・第4回合同開催

がん緩和ケアに関する国際会議

主 催

医療法人 東札幌病院

会 期

2022年7月21日(木)・22日(金)・23日(土)

第3回大会長

照井 健 (医療法人東札幌病院)

会 場

札幌パークホテル

第4回大会長

三宅 智 (東京医科歯科大学大学院)

〒064-8589 札幌市中央区南10条西3丁目

TEL 011-511-3131 <http://www.park1964.com/access/>

事務局

医療法人 東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35 TEL.011-812-2311 FAX.011-823-9552
E-mail: office@sapporoconference.com <http://www.sapporoconference.com>

第25回PEG・在宅医療学会に参加して

内科・副院長 日下部俊朗

このたび第25回PEG・在宅医療学会に参加する機会をいただきましたのでご報告します。今回は「日本のPEGを問う」というテーマで大会長の国際医療福祉大学 鈴木 裕教授により、2年前から綿密な準備がなされており、150題超の演題が発表されました。折しも東京都は新型コロナウイルス感染症流行に伴う緊急事態宣言発令中ではありましたが、参加者はワクチン2回接種もしくはPCR検査が義務付けられ、会場は十分な感染対策を行ったうえで、安全に運営されていました。

日本は世界に類を見ない超高齢化を迎え高齢者医療が問題になっています。医療のゴールが生存期間を延ばすことに終始した時代から、確実に患者さんのQOL重視に変わってきており、超高齢者においては、医療の在り方そのものまでもが問われ始めています。

内視鏡を用いた胃瘻造設術（以下、PEG）は、人にもともと備わった栄養吸収器官である胃腸を使った栄養投与方法で、点滴などの胃腸を使わない方法と比較して、より人本来の栄養吸収方法に近いため、消化管免疫が維持されるなどの様々な利点があり、長期にわたって安定した栄養サポートが可能となり、QOLを向上させることができます。

一方、重度の認知症の患者さんは最終的に食事の経口摂取が困難となりますが、こういった方にPEGや高カロリー点滴による栄養管理を行って延命を図ることについて、倫理的側面からも議論されてきました。今から十数年前にこのことが報道で取り上げられ、国民にPEGは良くないもの、されたくないもの、忌み嫌うものといった負の印象を強く植え付けられました。事のよし悪しに関わる議論をするとき、幸せそうでない（辛そうな）患者さんのみを抽出する手法は学問的にも倫理的にも問題があります。その結果、国民に大きな誤解を与えました。

近年ではPEGを取り巻く環境も変化してきており、PEGは食べることを断念する代名詞から、逆にもう一度食べられるようにする方法論に変化しています。頭頸部がんや脳卒中などのため口から食事がとれない障害を負った方に、PEGによる栄養管理を行うとともに嚥下リハビリテーションを併用して、経口摂取につなげていく取り組みの報告も多数なされました。障害を負って歩けなくなった方に杖や車いすが必要なように、PEGは口から食べることができない障害を負った方にきわめて有用なケアの手段です。

本学会で学んだことをよく考えて、日常の診療に生かしていきたいと思います。

石谷理事長の スキー 讃歌

その26

特別寄稿(下)

札幌医大スキー部の 皆さんとともに

ロッジ・ウッドベッカーズ オーナー

新谷暁生

石谷先生から娘のことを書くように言われた。しかし書くことが出来ないまま時間だけが経ってしまった。娘の桃子は2019年10月17日、亡くなった。39才だった。末期の乳癌で、偶然にも終末期医療を東札幌病院で受けることになった。子ども4人を残しての死だった。

1980年代ははじめから90年代にかけて、私はたびたびヒマラヤに出かけた。そんな私に変わって、当時の札幌医大スキー部のみなさんは子どもたちとよく遊んでくれた。桃子はそんな小さい頃の思い出を成人してからよく話していた。彼女にとってニセコでの時間は宝物だったのだろう。色々な思いが駆け巡る。私は娘たちの故郷を取り上げてしまった。

家族ではなくなったがあいの里に住む桃子の家庭を時折訪ねた。ニセコの野菜を届け、また知床の魚を運んだ。まあや、堇(すみれ)、楓(かえで)、航太の4人の子どもは、私を「くまじい」と呼んで突然の訪問をいつも喜んでくれた。帰りには家族全員が家の前に出て、角を回るまで手を振って見送ってくれた。良い家族だった。そんな幸せな桃子に病魔が襲った。

私は山で少なからぬ死に出会ってきた。雪崩搜索の現場で遺体を前に悲嘆に暮れる家族を何度も見た。肉親を失う辛さはわかっているつもりだった。しかし自分がそうなのはじめて、その本当の意味を知った。時は無為に過ぎる。しかし時間は止まったままだ。突然、発作のような記憶がよみがえる。それは覚えているはずのない会話だったり、病院や薬局の前で不安そうに佇む光景、高校の下校時に偶然見つけた桃子だったりする。

子どもの頃から音楽好きだった桃子は静岡の学校に行きピアノの調律師になった。結婚して子どもが生まれてからは育児の合間にアマチュアの合唱団で歌うようになった。幸せそうだった。それは彼女にとって子どもの頃から長く望んでいた生き方だったと思う。

桃子は家族とともに残り少ない時を家で過ごすことを望んだ。私は時々車を走らせ、あいの里を訪ねた。石狩の浜にも連れて行った。きれいな波の立つおだやかな秋の一日だった。死

の10日前の10月6日、室蘭で行われた全道合唱コンクールに合唱団の一員として参加した。立ち続けることはできず、椅子に座って歌った。歌い終わったあとでひとり立ち止まり、会場をゆっくりと見渡してから再び歩き出した。それは精一杯生きた、生き生きとした桃子の最後の舞台だった。

棺の中の桃子は穏やかな顔をしていた。気のせいか目にはうっすらと涙をためていた。葬儀が始まる前、私は小さいころによく歌ってやったモーツァルトの子守唄を小声で歌った。不安だったと思う。子どもたちのことが心配だったと思う。そしてまだ生きたかったと思う。

しかし全てを諦めてその日を迎えた桃子は、一人ずつ子どもを枕元に呼んで話して聞かせ、そして笑顔で旅立った。主治医の伊藤先生はその朝子どもたちに、「いつか必ずお母さんに会える日が来るからね」とやさしく話してくれたという。

私は生きていてほしかった。いつも傍にいてやりたかった。辛いものだ。患者や家族は藁にもすがる思いで病院を、そして先生を信用する。終末期医療は尊い。それは患者と家族の不安を取り除く。しかし本当は希望を捨てたくはないのだ。諦めたくはないのだ。生きるための治療を願っているのだ。誰もが必ず死ぬ。それはわかっている。しかし諦めきれない。今もたくさんの思いが駆けめぐる。何故手遅れになったのか。他に道はなかったのか。

私は緩和ケアというものをよく知らなかった。病気を治す治療法のひとつくらいにしか考えていなかった。しかしそうではなかった。桃子が最後にたどり着いたところが東札幌病院だったことが私の救いだ。

桃子はいつも私の仕事を気にかけていた。それは山で死ぬ人を一人でも減らすための仕事だった。事故後に原因がわかってもそれは後の祭りだ。死なせないこと以上に大切なものはないのだ。医療も同じと思う。私は桃子のためにも仕事を続けなければならない。そしていつか再び桃子に会える日を楽しみに生きようと思う。きっとそれはそう遠くないはずだ。石谷先生と伊藤先生には本当にお世話になった。心からお礼申し上げる。

外 来 医 師 ス ケ ジ ュ ー ル

(2021年11月1日～)

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午 前	9:00～12:00	1診	日下部	平山	鳥本	平山／小野	日下部	交代制
		2診	石谷	石谷 9:00～11:00	石谷	三原	三原	
		3診	久村	伊藤	渡邊(奈)	長岡		
		4診	二階堂	二階堂	二階堂	二階堂	二階堂	
		5診	高木	古谷	高木	秋津 (禁煙外来) 11:30～12:00	秋津 (禁煙外来) 11:30～12:00	
		6診	鳥本	呼吸器内科 (出張医)		鳥本		
		7診	長谷川	大村	岩山	大村	長谷川	
		8診	伊達		伊達	井須	整形外科	
		9診			佐藤 (病をよく識る外来)		西山 (セカンドオピニオン外来)	
		内視鏡	伊藤	長岡	日下部	渡邊(奈)	安保	
		腹部エコー			三谷			
		口腔外科	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午 後	14:00～17:00	1診	三谷 13:30～	小野	平山	町野	三谷	休 診
		2診		札幌大出張医 13:30～	札幌大出張医 13:30～	札幌大出張医 13:30～		
		3診	長岡	渡邊(奈)	渡邊(晃)	伊藤	渡邊(晃)	
		4診	中村		町野		中村	
		5診	秋津	渡邊(晃)		高木	脳神経内科 (出張医)	
		6診						
		7診	外科担当医 (手術のため緊急対応のみ)	大村	大村	外科担当医 (手術のため緊急対応のみ)	岩山	
		8診		井須	井須	伊達		
		内視鏡	渡邊(奈)	日下部	長岡	札幌大出張医	伊藤	
	13:30～17:00	口腔外科	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	水越／太子 石谷／清水	
	14:30～16:30	発熱外来	三原	三谷	西山	三谷	西山	

※外来受付時間 月曜日～金曜日8:30～17:00 土曜日8:30～12:00

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。

※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。

※禁煙外来(要予約) 木曜日・金曜日11:30～12:00 担当医師:秋津

※病をよく識る外来(要予約) 水曜日9:00～12:00 担当医師:佐藤

※セカンドオピニオン外来(要予約) 金曜日9:00～12:00 担当医師:西山

※石谷外来 火曜日9:00～11:00

※整形外科外来 木曜日 第1・3・5週 井須、第2・4週 札幌大出張医

※外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。

※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

※当院では、新型コロナウイルスの疑い例に該当しない患者さんを対象に発熱外来を開設しています。密を避け、感染の可能性を可能な限り避けるために、受診は予約制とします。また、受付、診察、会計は特設専用外来で行います。詳細は011-555-3167までお問い合わせください。



●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です(以後30分50円)。

医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver.2.0)の認定を受けています。

■認定期間
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG: Ver.2.0

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311(代表)
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: <http://www.hsh.or.jp>

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。